

陳 述 書

控訴人 佐藤ふじ枝

近年 餃子事件以後たくさんの食品に関する偽装問題が発覚し、食品に対しての安全に対しての関心が深まってきました。しかしながら一方では見かけだけでは分からないこともたくさん見えてきました。

例えば食品に対しての表示では原産地が記入されるようになったが二種類以上パックしてであると加工品扱いで記入の必要が無くなるというので野菜やおさしみ等わからないものもいろいろあります。

添加物でも……等と記入されていても、その等とは何なのか。またその添加物はどんなもので何のために使用されていて人体に安全なものなのか分からないものも多い。

生産者がわかるというものも多くなってきているけれど本当に農薬を減らして作っているのかいちいち見に行っているわけではない。

私たちが望んでいるのは「安全」で「安心」できる物を食べたいということです。憲法第 25 条で保障されているように すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。ということなのです。生涯健康で過ごすには食品の安全が特に必要不可欠なのです。

昨年 GM イネ反対裁判の結果は却下になり非常に不本意です。なぜなら微生物研究者の平松啓一先生等が指摘されているように、この野外実験で憂慮されるのは今回の耐性菌はディフェンシンという抗菌タンパク質に耐性を持つ菌でありカラシナに限らず、多くの動植物、昆虫、ヒトの生体防御の第一線を突破される可能性があると言われました。

今回の実験では平常のイネの $\frac{1}{10}$ ほどの株しか実らず、実験にあたってビーカーに 10cm ほどのイネを入れておいたら翌日枯れてしまったとの結果を知らされました。実際そんなに簡単に枯れるものとは理解できません。北陸センターからは花粉は 20~25m しか飛ばないといわれましたが田んぼは年中無風状態ではあるまい。タンポポの種などはずいぶん遠くへ飛んでいくのはよく見られます。イネの花粉はあまりに小さく見ただけではわかりませんがいくつぶかでも風や塵に乗って遠くへ飛んで交雑し、そこから広がり、せいたかあわだち草のように日本中に広まる事になったらそれこそ大変な事になります

そんなに恐ろしい結果を生む可能性を持つ GM イネの種子ができてしまい、安全確認がされないまま日本中で栽培されたらどうなってしまうのか。危険だと分かっただけでは取り返しが出来なくなることが容易に考えられます。こんな危険な実験は絶対やめるべきです。

最近 新型インフルエンザが世界中で猛威をふるっています。今までのインフルエンザがどう変わったのか全然知らされず結果しか分かりません。死者まで増えているのにです。鳥インフルエンザの広まった時もそうでした。鳥への対策しかしていない中で人にも伝わ

り死者も出ました。

また 許せないのは安全だとして許可しておきながら事故が起きてからやっと対策を考えたことがたくさんありました。みどり十字社のエイズの薬は悲惨でした。外国では禁止にしていることが分かっていても輸入した薬がある間使用禁止にしなかったのです。HIVの菌が体内に入れば取り除く事ができないうえに、いつエイズが発病するか毎日びくびくして暮していたり、知らずに家族やまわりの人にうつしたりしています。もっと大変なのはサリドマイドで生まれながらにして障害をよぎなくされ、それが外見で分かるために周囲の人から奇異な眼で見られたり、就職できる範囲が狭く、努力だけではどうにもならないことが多いのです。新潟県でも阿賀野川の所で水俣病で苦しんだ人たちが大勢いました。みな苦しんだだけではなくいわれのない差別という二重の苦しみをあじわっています。

その他 森永ヒ素ミルク中毒事件 PCB 汚染 カネミ油事件 などのほかにも沢山の問題が起きているけれどいつも事件が分かっていても調査に手間取ってなかなか対処しなかったことが多かったです。

それらの事件はすべて分かった後にいくばくかの保証金をもらったとしても、一生元どおりにはならず苦しみがいえないのです。

人間は 芥川龍之介の河童の話のように自分の意思で生まれるか否かを判断できません。だれもが健康で安心して暮せる日常を望んでいます。

日本人にとっては毎日食べるご飯の問題です。このように繰り返し事後に取り返す事の出来ない事件にならないうちに GM イネの実験を停止し後顧の憂いをなくしてください。

病気は現在では治療より予防が大切だといわれています。GM イネで異常が分かたら日本中の人に影響が出ます。それでは新型インフルエンザどころではありません。そうなる前からでは永久に回復できない事を分かってください。くどいようですが GM イネなどあってはならないです。

2009 年 12 月 1 日

佐藤 永じ 様

東京高等裁判所 殿